

# 知ってください 動物たちの苦しみ



この犬は心理的ストレス状態を引き起こす実験のために、足を繰り返しハンマーで打ち砕かれた。麻酔も何の手当もされていない。  
(日本の研究施設でイギリス人が撮影)

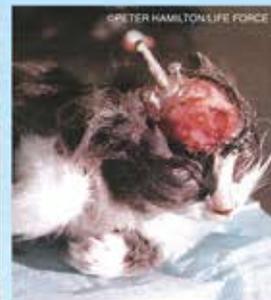
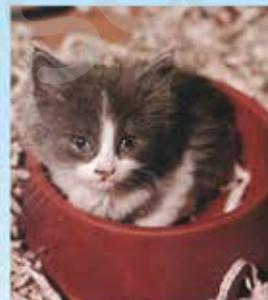
人間に最も近いゆえにサルはさまざまな動物実験の犠牲になっている。動物実験に使われた動物は、実験後には殺処分されてしまう。  
(京都大学霊長類研究所での実験)



化粧品のドレイズテストに使われるウサギ。この実験では、ウサギの眼に化粧品の原料などを注入し、3日～4日間、眼がいかに損傷していくか様子を観察する。



急性毒性試験によって、痙攣と呼吸困難に苦しみ、目からも血を流している。



猫は脳神経を調べる実験によく使われる。餌箱に入ってしまうほど小さかった子猫のアロパールも、実験のために短い一生を終えた。

## “動物実験”は私たちの生活に密接に関わっています

動物実験は、よく知られている医学研究や新薬開発だけでなく、化粧品、食品、日用品、農薬、工業用品など化学物質の安全性試験や、生理学、栄養学、生物学、心理学などの基礎研究、大学や学校といった教育現場における実習など、私たちが暮らす社会のさまざまな分野で行われています。



### “動物実験”ならば虐待も許されるのでしょうか？

動物を苦しめ死に追いやる動物実験は、密室における最大の動物虐待です。過去約160年もの間、「医学の進歩のため」「科学の発展のため」という大義名分のもとで、罪もないたくさんの動物たちが化学物質を飲まされ、切り刻まれ、殺されてきました。

本来、動物虐待は、法律で罰せられるべきとした犯罪行為なのです。それなのに動物実験なら、どんな残酷な動物虐待でさえも「人間の健康や安全のため」と正当化されてしまいます。動物実験という名の動物虐待一決して許されるものではありません。

### “動物実験”では人間を救えません

「医学の発展や薬などの製品の安全性を調べるために動物実験は必要」とよく言われます。ところが、人間と動物とでは体の構造や代謝機能などの違い(=種差)があり、化学物質への反応が異なるため、「動物実験で得られたデータの多くは人間にあてはまらない」というのが、今や科学者たちの間では常識になっています。

\*欧米では専門家の間にも動物実験に反対する人たちが増えてきており、医師や科学者に  
よる動物実験に反対する数多くの団体があります。



### 動物を使わない研究方法があります

近年、ヨーロッパを中心に動物実験に反対する市民の声が高まった結果、培養細胞やコンピュータシミュレーションなどによる動物を使わない研究方法<代替法>の開発が着々と進んでいます。化粧品の分野では、EU(欧州連合)で、2013年3月に域内での動物実験および他国で動物実験された化粧品の販売が完全禁止になりました。この動きはEU以外の国でも起こってきています。また、OECD(経済協力開発機構)やICH(医薬品規制調和国際会議)といった国際機関の化学物質や医薬品の安全性試験ガイドラインにおいても、代替法を取り入れる努力が進められています。これらはJAVAが活動を始めた30年前には予想もできなかった進歩で、動物実験の廃止はもはや現実離れたことではありません。動物実験の廃止を目指すことは、長い間、動物たちを苦しめ続けてきた私たち人間の責務と言えるでしょう。

**動物実験 = NO !**

**動物を犠牲にしない代替法 = YES !**

**この意思表示が動物実験をなくす第一歩です**

●ぜひJAVAの会員になってください。入会資料などをご希望の方は、JAVA事務局へご連絡ください。

●JAVAの活動をご支援ください。ご寄付の振込先[郵便振替:東京 00190-2-670517][ゆうちょ銀行:〇一九店 当座 0670517] 共通名義/JAVA

**JAVA** NPO法人 動物実験の廃止を求める会  
JAPAN ANTI-VIVISECTION ASSOCIATION

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町29番31号 清桜703

TEL: 03-5456-9311 FAX: 03-5456-1011

URL: <https://www.java-animal.org>

E-mail: [java@java-animal.org](mailto:java@java-animal.org)

\*JAVAは特定の企業・政党・宗教とは関係のないボランティアの市民団体です。



JAVAは1986年に設立された全国規模の市民団体です。動物実験の実態と、その倫理的・科学的な過ちを広く知らせ、動物実験の廃止を目指す活動を柱に、動物の命と権利を守る活動を活発に行っています。世界100以上の動物保護団体とネットワークを持ち、世界有数の団体で組織された国際動物保護委員会(ICAPO)にはアジア地域で唯一のメンバーとして参加するなど、国内外の動物問題に積極的に取り組んでいます。